

令和4年度 事業計画案

伊賀圏域障がい福祉連絡協議会就労部会 ヘルパー人材育成WG

1 ヘルパー人材育成WGの役割

各関係機関の連携により、居宅介護等サービスの質・量の向上の取り組みを行い、圏域における地域福祉サービスの安定と充実を図る。

2 令和4年度 活動目標

- ・ 事業所間の相互援助体制の構築
- ・ コンプライアンスを含めたサービス水準の向上

3 具体的な活動内容

① 事業所間の相互援助体制（通称：さきがけシステム）システム案の作成

- ・ 契約方法についての検討

県担当者との協議の結果、包括契約は難しいことがわかった。コンプライアンスを踏まえた上で、利用者に負担をかけず、効率的（迅速）に複数契約できる方法を引き続き検討する。

- ・ 情報ツールの活用

ヘルパーの空き情報などを管理する情報ツールの活用可能性について検討する。
効率的なヘルパー派遣のために必要な機能を検討し、情報ツールの勉強会を行う。

- ・ 居宅介護事業所、特定相談事業所へのヒアリング

居宅介護事業所や特定相談事業所から、上記契約方法や情報ツール活用についての意見を聴き取り、さきがけシステムの制度案作成につなげる。

② スキルアップ研修の開催

- ・ 研修の企画
- ・ 研修開催

コロナ禍での研修開催は講義形式になりがちであるが、意見交換やワークができるよう、少人数のブロック別開催とするなど、開催方法等の検討を行う。

③ その他

令和4年度 事業計画案

伊賀圏域障がい福祉連絡協議会「くらし部会」 精神障がい地域包括ケアシステムWG

1. 精神障がい地域包括ケアシステムWGの役割(継続)

【活動理念目的】

精神障がい者が地域の一員として安心して自分らしい暮らしができる医療、障害福祉、介護、社会参加、住まい、地域の助け合い、教育が包括的に確保された地域包括ケアシステムの構築を目指す。

【活動目標】

他職種で構成されるWGメンバーにより、日常生活圏域における課題を抽出し項目を整理して、本会議に地域ケアシステム構築に向けての提言を行う。

2. 令和4年度 活動目標

1. 昨年度、実施した伊賀圏域グループホーム入居者意識調査の結果から得た内容と関連付けたケースを抽出し個別事例を検討することで、地域移行に必要な対応や支援内容を具体的に考える。
2. 個別事例の対応を検討することで、地域移行後の地域定着支援に必要な対応や内容を具体的に考える。
3. 個別事例の対応を検討することで、対象者だけでなくケースを取り巻く事業所や支援者の対応や支援方法についても検討していく。

3. 具体的な活動内容

- ・事例を抽出する。
- ・ワーキング会議にて、事例検討を行う。
事例検討での留意点
 - ※ 調査結果の内容と関連付ける。
 - ※ 調査結果と関連付けできない課題については、地域移行阻害要因として集約する、
 - ※ 個別事例の対応を通して、既存のサービスの対応で可能なのか、支援者側や行政的体制の課題によるのかを見極める。
 - ※ 福祉サービスでの対応だけでは困難な、本人の意識低下や不安についての精神的な支援についての検討も必要である。
 - ※ 福祉サービスだけでなく、家族、支援者の意識や地域移行、地域定着に向けての福祉行政や地域住民意識についても検討する。
 - ※ 地域移行に向けた課題解決だけでなく、移行後の定着も視野にいれた検討も平行して検討する。
 - ※ 地域移行や地域定着を阻害する要因は、一つではないので課題の整理を行い支援者の役割を明確にしていく。
- ・事例検討で、検討した課題や達成した支援方法を本会議に報告できるように整理する。

令和4年度 事業計画案

伊賀圏域障がい福祉連絡協議会就労部会 雇用啓発WG

1 就労部会雇用啓発WGの役割

- ・ 就労のステージ(雇用の場・就労福祉サービス、地域活動参加等)の多様な環境を整え、積極的な社会参画ができる地域を構築していく
- ・

2 令和4年度 活動目標 (箇条書きで3つまで)

- ・ 福祉から就労に向けた計画推進と障がい者の就労定着や雇用促進に向けた啓発
- ・ 雇用の場の開拓と啓発
- ・

3 具体的な活動内容 (箇条書きで各2つまで)

① 他機関主催イベントへの参画

- ・ 障がい者就職面接会 (10月、2月) 協力
- ・
- ・

② 企業訪問の実施

- ・ 対象企業、訪問時期の検討 (夏頃)
- ・ 企業訪問実施 (秋頃)
- ・

③ 企業向け研修会の開催

- ・ 研修に関する企業向けアンケートの実施
- ・ アンケートの内容を活用した企業向け研修会開催
 - a. 雇用啓発WG各機関の支援内容周知
 - b. 伊賀圏域の障がい者雇用に積極的な企業を講師として招聘
 - c. 精神・発達障がい者しごとサポーター養成講座に併催

④ その他

- ・ WGメンバー勉強会 (障がい者支援ツール検討ほか)
- ・

令和4年度 事業計画案

伊賀圏域障がい福祉連絡協議会就労部会 事業所連絡会WG

1 就労部会事業所連絡会WGの役割（継続）

- ・ 福祉と労働が連携し、障がいのある人の多様な働き方を実現する
- ・ 障がいのある人が活躍できる就労活動の実現に努め、ひとりひとりが豊かな暮らしを送ることを支援する

2 令和4年度 活動目標

- ・ 事業所間コミュニケーションを図り、目に見えるネットワークをつくる
- ・ 仕事の共同受注についての仕組みをつくる

3 具体的な活動内容

- ① 目に見えるネットワーク構築のための組織づくり （時期 6月） （担当者 WGで分担）
 - ・ リーダー・副リーダー・各担当(研修・ガイドブック・マルシェ・相互訪問事業)役割の明確化
- ② 連絡会の活性化 （時期9～10月） （担当者 相互訪問事業担当）
 - ・ 事業所間の訪問と交流

交流を目的とし、希望する事業所を希望する会員が相互訪問する。
(想定する訪問ユニットは、希望する会員・WGメンバー・事務局)
- ③ マルシェの開催(伊賀市・名張市合同開催) （時期10～12月） （担当者 マルシェ担当）
- ④ 研修会の開催(リモート) （時期 8月・11月） （担当者 研修担当）
 - ・ 8月 テーマ
 - ・ 11月 テーマ
- ⑤ 事業所連絡会の開催について （時期 2月） （担当者 研修担当）

(R3年度継続分)

 - ・ 事業所間のコミュニケーションを図ることを目的に開催する
 - ・ 事業所間訪問により抽出した課題をテーマに挙げる
 - ・ グループワーク中心に計画する
- ⑥ 事業所MLの運営について （時期 7月） （担当者 上野ひまわり作業所）
 - ・ 情報共有・発信・管理に関するルールを目的とした運用マニュアルの作成(奥西)
 - ・ 共同受注の発信、各種の情報共有のために運用
- ⑦ 事業所ガイドブックについて （時期 5月） （担当者 ガイドブック担当）
 - ・ 新デザインのバージョンアップ(MAP等)
 - ・ **(毎年度実施分)** 内容の変更確認をして、更新したものをアップデート(事務局)
- ⑧ その他